



テーブルをウッドのテーブルに変えるだけで、グッと雰囲気が良くなる。本来ソファは柄の入った生地が使われていたが、無地のファブリックにしたのも正解

カリフォルニアを
匂わせる内装に！
今回愛車と共に登場してもらった荒川さんは、有名なカフェなどの内外装の企画から設計、施工まで行う一級建築士事務所「エー・ディーアンドシー」の代表を務める。愛車は日本で企画しカナダで製作されたクラスCの最高傑作との呼び声が高いB.C.ヴァーノン。日本での使い勝手を考慮した作りで、キッチンやリビングなどの家具がすべて日本人に合わせたサイズになっている。そんな完成された名車をキャンパー仲間であるパディオートの水野さんとリフォームしたというから面白い。
「普段、飲食店から個人宅まで内装を手掛けていますから、そんなに大変なことではないんですよ。パディオートの水野さんにもいますから、構造変更しても車検を通せるので一安心。前の内装が気に入らないわけではないのですが、より自分使いやすいように、家具などの配置を変えたり、壁紙の上からペンキを塗ったり、ソファの生地を張り替えたりと、いろいろとリフォームしています。またテーブルのトップにウッドを使ったり、床をフローリング風に変えたりと、前と比べるとナチュラルな雰囲気になったかと思えます」
2つの内装を比べているが、もともとのベースが違い、荒川さんのB.C.ヴァーノンには入り口

から入って右側に2つのソファが置かれていた。その使い勝手が悪かったそうで、うまい具合にアレンジ。ソファを張り替え、床と壁紙を変えただけで、その内装は一変。海が大好きな荒川さんらしいさが溢れ、西海岸の香りのする雰囲気が溢れた。これだけでも50万程度、自宅のリフォームと比べればかなり安いし、より愛着が湧くこと間違いなしだ。



B.C.ヴァーノンの中でも日本市場で人気の高い19フィートモデル。長さが6メートルほどなので、コンビニなどの駐車場で簡単に停められる。日本の道路事情を考慮すると、このサイズがベスト。LEとはリビングエディションの略



Before

モーターホームを リフォームするという発想。

CAR MODEL
B.C.VERNON 19LE

OWNER
荒川浩司さん

より快適に余暇を過ごすためにモーターホームをリフォーム。そんな玄人的な楽しみをしているのが荒川さん。世界にひとつだけのプライベート空間になっていた。

Text: S.S. 他 撮影: Photo: M. Watabe 遠田昌彦
問い合わせ: パディオート TEL: 03-324-0230 www.padiot.com/ja/duddy

I WANNA GET A
Camper.
キャンパーのある暮らし。
Lighting No.217 Special Issue
CAMPER
LIFE!

After

自らがペイントした
味のある壁も絶妙!



4



5



7



6

4.あえて壁紙は剥がさず、その上からワイルドにペンキを塗っている。もともとナチュラルカラーであるが、白く塗装。ここは割れやすいそうで、あえてヒビを活かしている。6.ブラインドから差し込む光が雰囲気づく

9



8

7.一見、味のあるフローリングに見えるが、実はシートだそう。もとはカーペットだったので、これだけでも印象がまったく変わるのだ。8.青い壁とランプが絶妙にマッチ。そこに海外のアンティークショップで購入したという絵を飾っているのが、なんとも荒川さんらしい。9.B.C.グァーノンの中でも人気の高い19フィートモデル。LEというエディションで外装に青を多用している



1

I WANNA GET A Camper!

キャンパーのある暮らし。
Upcoming No.257 Special Issue

CAMPER LIFE!

1.このようにソファを倒せば、大人でも2人で寝られるベッドに早変わり。荒川さんは子供が2人いるので、家族4人で快適に住えるそう。2.このようにソファ部分にテーブルを立てることも可能となっている。この反対側にもソファがあるので、テーブルを一家団圓で囲めるのも、このモーターホームの醍醐味である。3.テーブルを組み立てる荒川さん。普段はソファ下の収納スペースに保管している

Profile
荒川浩司さん

有名飲食店の内装などを手掛ける一級建築士事務所「エー・グイ・アンド・シー」の代表取締役を務める一方で、都内と田舎の要素を持ち合わせる多摩丘陵を中心とする地域での暮らしを提案する『トカイナカ』の運営経営責任者でもある。サーファーでもあり、先日このクルマでサーフトリップに行ったそうだ



3



2